

「琵琶湖システム」が誇る“豊かな食”

琵琶湖を守る日本一の環境こだわり農業 近江米



湖魚や農産物を使った 伝統的な食文化



びわ湖めぐみ (琵琶湖八珍など)



近江の伝統野菜 (かぶなど)



多様な主体が連携する「琵琶湖システム」



おいさで漁 水質や生態系に配慮した「環境こだわり米」 企業や学生などが参加するヨシ刈り活動 企業の森づくり (生活協同組合コープしが提供) 河川を遡るピワマス(米原市提供)

世界農業遺産/日本農業遺産とは・・・

世界農業遺産(Globally Important Agricultural Heritage Systems: **GIAHS**(ジアス))は、社会や環境に適応しながら何世代にもわたり発達し、形づくられてきた伝統的な農林水産業と、それに関わって育まれた文化、景観、生物多様性などが一体となった世界的に重要な農林水産業システムを国連食糧農業機関(FAO)が認定する仕組みです。

「**日本農業遺産**」は農林水産省が認定する国内版の制度です。

世界農業遺産認定の効果

地域固有の農林水産業の価値が世界的に認められることで、農林水産物のブランド化や観光客誘致を通じた地域の活性化が期待されます。また、認定地域同士の交流など、国内外との連携強化も望めます。



Mother Lake Goals

変えよう、あなたと私から

琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業は、国連の定めた持続可能な開発目標(SDGs)の17の目標の達成に寄与しており、特に「6 Clean Water(安全な水を世界に)」、「14 Life below Water(水産資源の保全)」、「15 Life on Land(陸域生態系の保全)」、「17 Partnerships for the Goals(パートナーシップで目標を達成しよう)」などの達成にも貢献しています。また、琵琶湖版SDGsであるマザーレイクゴールズ(MLGs)にも、大いに貢献しています。

「世界農業遺産」に認定された琵琶湖と共生する農林水産業を ロゴマークで応援しませんか?



このマークを目印に
持続的な営みを
応援しませんか?

- ◆ 次のような産品、活動の案内等に掲載いただけます
- ① 環境こだわり農産物、魚のゆりかご水田米
- ② 琵琶湖の水産物(真珠を含む)、ヨシ
- ③ ①または②を使用する加工品や旅行商品、交流事業
- ④ 琵琶湖の環境保全活動(水源林保全を含む)
- ⑤ ①から④に関連する学習・体験活動
- ※他に、文房具やお土産品でも「応援してます!」等の文言付記によりご利用いただけます。

◆「琵琶湖システム」やロゴマーク利用に関する届けについては、琵琶湖システムHPをご覧ください。

「琵琶湖システム」SNS各種およびHPはこちらからどうぞ!



滋賀県 世界農業遺産 検索

会員登録・お問い合わせ(事務局)

滋賀県 農政水産部 農政課 企画・世界農業遺産係
住所:滋賀県大津市京町四丁目1-1
TEL:077-528-3825 FAX:077-528-4880
E-mail:shiga-giahs@pref.shiga.lg.jp

世界農業遺産



もり 森・里 湖 に育まれる 漁業と農業が織りなす
琵琶湖システム



滋賀県・琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業推進協議会

未来につながる「琵琶湖システム」

循環型の生業(漁業・農業)システム



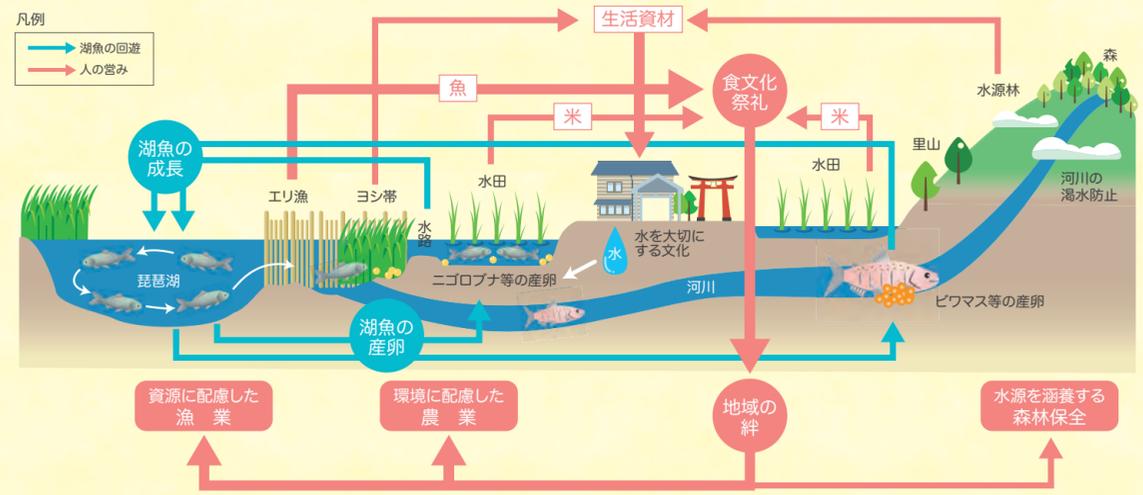
- 古代から続く、琵琶湖で回遊する湖魚(ニゴロブナやコイなど)が水田に遡上し、産卵・繁殖
- 男性と女性が協力して行う「エリ漁」等の伝統的な琵琶湖漁業
- 伝統食ナレズシ(フナズシ等)の漬け込みと神様へのお供え
- 水田や琵琶湖における生きもの多様性と人の賑わい
- 水質や生態系に配慮した農業と、水源を涵養し、河川で産卵する湖魚(ビワマスやアユなど)の繁殖環境を守る水源林保全



琵琶湖のシステム

水・里・湖に育まれる 漁業と農業が織りなす

琵琶湖周辺の水田は、琵琶湖の固有種であるニゴロブナなどの湖魚に絶好の繁殖環境を提供してきました。こうした水田やヨシ帯などに向かってくる湖魚の生態を巧みに利用してきた「エリ漁」は、資源にやさしい伝統的な「待ちの漁法」の代表格です。また、河川に遡上する湖魚の産卵環境の保全に寄与する多様な主体による森林保全の営みや琵琶湖の環境に配慮した農業など、森、川、水田、湖のつながりは、世界的に貴重なものです。このような琵琶湖と共生する農林水産業(琵琶湖システム)は、千年以上に渡って受け継がれてきたもので、**2019年2月に「日本農業遺産」に認定され、2022年7月にFAO(国連食糧農業機関)の「世界農業遺産」に認定されました。**



湖 魚が産卵にやってくる水田 (魚のゆりかご水田)

- ニゴロブナは、琵琶湖の固有種で、その産卵・育成には、湖辺の水田が大きな役割を担っています。この湖魚は、繁殖期を迎える5月頃、湖辺のヨシ帯や水路を遡って水田までやってきて産卵します。
- この時期の水田は、水が温かく、プランクトンなどの餌が豊富で、外敵が少ないことから、稚魚の育成に適しています。
- 水路との間で水位差が生じた水田では、水路への堰(魚道)の設置により、水田に魚が遡上する昔ながらの「魚のゆりかご水田」の営みを継続しています。
- こうした水田は、水産資源を守り、豊かな生きものを育むなど、生物多様性の保全にも寄与しています。



伝 統的な「待ちの漁法」と資源保全

- 琵琶湖漁業を代表するエリ漁は、平安時代の和歌に詠まれるなど、千年以上の歴史を有する伝統漁法です。
- エリ漁は、琵琶湖を回遊する湖魚の生態を巧みに利用し、ツボと呼ばれる部分に魚を誘導して捕獲する待ち受け型の漁法です。この漁法は、必要な量だけ漁獲できるもので、漁業者は、限りある水産資源に配慮した漁を続けています。
- エリの設置制限や禁漁区の設定など、江戸時代以前から続く資源保全に通じる考え方も、現在に受け継がれています。



琵琶湖の環境に配慮した農業

- 琵琶湖の水質や生態系保全のために、多くの農業者が「環境こだわり農業」や「世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策」などに取り組んでいます。その結果、農地は多様な生きものを育む場にもなっています。
- 「環境こだわり農産物」は、農薬や化学肥料の使用量を通常の半分以下にして生産されたもので、栽培面積は年々拡大しています。また、化学合成農薬の使用量は、取組開始以降、約4割減少しています。



水 源林の保全

- 琵琶湖を取り巻く山々では、明治時代以降、森林緑化が進められました。これにより、洪水防止や河川の濁水防止が図られ、河川を遡って産卵する湖魚の繁殖環境の保全にもつながっています。
- 琵琶湖の漁業者や林業者、県民が協働で植林を行う「漁民の森」や企業の森づくりなどにより、水源林の保全が図られてきています。



フナズシなど伝統的食文化と祭礼

- 食文化の中心は、湖魚をご飯に漬けて発酵させる保存食で、近年、健康面での価値も見直されているナレズシです。
- 中でも、フナズシは、贈答品や祭礼の供え物としても用いられ、人々の絆の醸成にも寄与してきました。
- 現代では、この絆の輪が広がり、多様な主体の参画による「琵琶湖システム」の継承につながっています。



水源を守る森林・里山



琵琶湖への負荷が低い農業

